

様式第1（第11条、第14条、第15条関係）

ばい煙発生施設設置（使用・変更）届出書

年 月 日

（あて先）一宮市長

住 所
届出者 郵便番号
氏 名
（名称及び代表者氏名）

第7条第1項
県民の生活環境の保全等に関する条例 第8条第1項 の規定により、ばい煙発生施設
第9条第1項
について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称		※ 整 理 番 号	
工場又は事業場の所在地		※ 受 理 年 月 日	年 月 日
ばい煙発生施設の種類		※ 施 設 番 号	
ばい煙発生施設の構造	別紙1のとおり。	※ 審 査 結 果	
ばい煙発生施設の使用の方法	別紙2のとおり。	※ 備 考	
ばい煙の処理の方法	別紙3のとおり。		

- 備考 1 ばい煙発生施設の種類の欄には、別表第1に掲げる項番号及び名称を記載すること。
 2 連絡責任者の所属、氏名及び電話番号を記載した書類を添付すること。
 3 ※印の欄には、記載しないこと。
 4 変更の届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を別紙4により対照させること。
 5 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格A4とすること。

別紙1

ばい煙発生施設の構造

工場又は事業場における施設番号			
名称及び型式			
設置年月日		年 月 日	年 月 日
着手予定年月日		年 月 日	年 月 日
使用開始予定年月日		年 月 日	年 月 日
規	伝熱面積 (m ²)		
	バーナーの燃料の燃焼能力 (重油換算ℓ/h)		
	原料の処理能力 (t / h)		
	製品の処理能力 (m / h、 t / h)		
	火格子面積又は羽口面断面積 (m ²)		
	変圧器の定格容量 (kVA)		
	触媒に付着する炭素の燃焼能力 (kg / h)		
	焼却能力 (kg / h)		
	乾燥施設の容量 (m ³)		
	混合施設の容量 (m ³)		
	溶解施設の容量 (m ³)		
	調整施設の容量 (m ³)		
	反応施設の容量 (m ³)		
	焼付施設の容量 (m ³)		
	抽出施設の容量 (m ³)		
	蒸溜 ^{りゆう} 施設の容量 (m ³)		
模	脱脂施設の容量 (m ³)		
	脱脂・洗浄施設の空気に接する面積 (m ²)		
	蒸発施設の容量 (m ³)		
	濃縮施設の容量 (m ³)		
	滅菌施設の容量 (m ³)		
	発泡施設の容量 (m ³)		
	吹付け能力 (ℓ / h)		
	電 流 容 量 (k A)		
	ポンプの動力 (k W)		

- 備考 1 設置の届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用の届出の場合には設置年月日の欄に、変更の届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 規模の欄には、別表第1の中欄に掲げる施設の当該下欄に規定する項目について記載すること。ただし、同表の35の項の中欄に掲げる施設については、該当する欄をすべて記載すること。
- 3 ばい煙発生施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本産業規格A4の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。

別紙2

ばい煙発生施設の使用の方法

工場又は事業場における施設番号			
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	時から 時間/回	時まで 回/日 日/月
	季節変動		
原材料 (ばい煙の発生に影響のあるものに限る。)	種類及び使用割合		
	原材料中の硫黄分、有害物質の成分割合(%)		
	1日の使用量		
燃料又は電力	種類		
	燃料中の成分割合(%)		
	発熱量(kJ/kg、kJ/m ³)		
	通常の1時間当たり使用量		
	混焼割合		
排出ガス量 (m ³ /h)	湿り	最大	通常
	乾き	最大	通常
排出ガス温度 (℃)			
排出ガス中の酸素濃度(%)			
ばい煙の濃度	ばいじん (g/m ³)	最大	通常
	硫黄酸化物(容量比 ppm)	最大	通常
	有害物質	最大	通常
ばい煙量	硫黄酸化物 (m ³ /h)	最大	通常
参考事項			

- 備考 1 原材料中の硫黄分、有害物質の成分割合(%)の欄及び燃料中の成分割合(%)の欄の記載に当たっては、重量比%又は容量比%の別を明らかにすること。
- 2 燃料1立方メートル当たりの発熱量については、温度が零度であって圧力が1気圧の状態(以下この号において「標準状態」という。)における発熱量に、排出ガス量及びばい煙量については、標準状態における量に、ばい煙の濃度については、標準状態における排出ガス1立方メートル中の量に、それぞれ換算したものとする。
- 3 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 4 ばい煙の濃度は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。
- 5 ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設については、参考事項の欄に一行程中の排出量の変動の状況を記載すること。

別紙3

ばい煙の処理の方法

ばい煙処理施設の工場又は事業場における施設番号				
処理に係るばい煙発生施設の工場又は事業場における施設番号				
ばい煙処理施設の種類、名称及び型式				
設置	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
着手予定	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
使用開始予定	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
処理能力	排出ガス量 (m ³ /h)	最大		
		通常		
	排出ガス温度 (°C)	処理前		
		処理後		
	ばい煙の濃度	ばいじん (g/m ³)	処理前	
			処理後 (捕集効率%)	() ()
	有害物質	硫酸化物 (容量比 ppm)	処理前	
			処理後 (捕集効率%)	() ()
	ばい煙量	硫酸化物 (m ³ /h)	最大	処理前
			通常	処理後
最大			処理前	
通常			処理後	
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等		時から 時まで 時間/回 回/日 日/月	
	季節変動		時から 時まで 時間/回 回/日 日/月	
排出口の実高さ Ho		(m)		
排出口の頂口径		(m)		
補正された排出口の高さ He		(m)		
排出速度		(m/s)		

- 備考
- 1 設置の届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用の届出の場合には設置年月日の欄に、変更の届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
 - 2 排出ガス量及びばい煙量については、温度が零度であって圧力が1気圧の状態（以下この号において「標準状態」という。）における量に、ばい煙の濃度については、標準状態における排出ガス1立方メートル中の量に、それぞれ換算したものとする。
 - 3 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
 - 4 補正された排出口の高さ He は、別表第6の付表第2の算式により算定すること。
 - 5 ばい煙処理施設の構造図及び主要寸法を記入した概要図を添付すること。

別紙 4

ばい煙発生施設の構造（使用の方法・処理の方法）の変更

変 更 前	
変 更 後	
変 更 の 理 由	

様式第6（第13条、第31条、第63条関係）

工場等の事業内容等

工場又は事業場の名称			
工場又は事業場の所在地			
業種			
設置年月日		年月日	
工場又は事業場の規模	常時使用する従業員数(人)		工場又は事業場の所在地の都市計画法の用途地域の区分
	敷地面積 (m ²)		
	建物延べ面積 (m ²)		
主要生産品	品目	1月当たりの生産量	
主要原材料	品目	用途	1月当たりの使用量
主要燃料	品目	用途	1月当たりの使用量

備考 用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。